

2007 年度 日本雪氷学会全国大会報告

富山大学大学院理工学研究部 (理学) 島田 亙

富山大学極東地域研究センター 川田 邦夫

立山カルデラ砂防博物館 飯田 肇

(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター 石坂 雅昭

1. はじめに

2007 年 9 月 25 日 (火) ~ 29 日 (土) にかけて、富山大学をメイン会場に、2007 年度日本雪氷学会全国大会 (以下、雪氷学会全国大会) を開催しました。

一昨年の旭川、昨年の秋田に続き、(社)日本雪氷学会と日本雪工学会との連携で企画された「平成 19 年度雪氷研究富山大会」の中での、同時期、一部合同の開催となりました。

会場は、研究発表・パネルディスカッション・各種分科会は富山大学五福キャンパス内の教養教育棟、公開講演会は理学部多目的ホール、そして平成 19 年度文部科学省科学研究費補助金による一般及び子供向けの公開イベント「雪氷楽会 in 富山」は富山市科学博物館で行われました。なお、名鉄トヤマホテルで行われた懇親会は、雪氷学会本部の要請で今年度から独立会計として行いました。

2. 実行委員会等の準備活動

川田邦夫実行委員長のもと、25 名の実行委員が協力し、大会の準備を行いました。富山には雪工学会の会員が少なく、また雪氷学会の会員も多くはないため、近県からも多くの方に実行委員になって頂きました。また運営では富山大学の多くの学生に協力を得ました。

雪氷研究富山大会は、昨年の秋田大会同様、火曜日から土曜日の 5 日間で両学会が一部合同の開催形式を取るようになりました。特に合同での開催となる公開講演会・懇親会の日程決定・準備を先行して行いました。

実行委員会は、前年の 11 月以来、準備のために 6 回の実行委員会を開催し、また直前には担当者



図 1 メイン会場の富山大学五福キャンパス

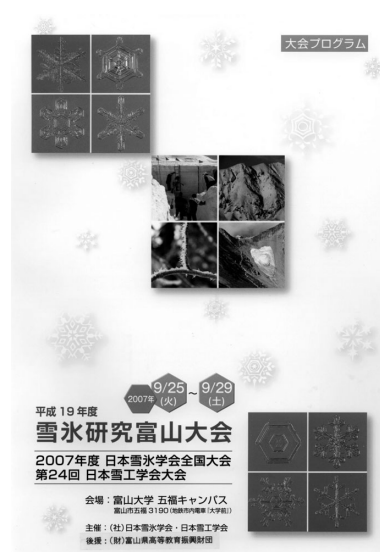


図 2 雪氷研究富山大会プログラムの表紙

のみの会合を何度も開きました。また実行委員会のメーリングリストを活用し、情報の共有・意見交換を行いました。開催案内は「雪氷」に「全国大会のお知らせ」として順次掲載すると共に、ホームページを開設し、最新情報を発信しました。

大会会場は、経費・広さの都合から富山大学五福キャンパス内の教養教育棟を使用することにしました。建物が古いため、みなさまにはご不便をおかけしたかもしれませんが、ポスター発表や各種分科会では、広さを生かしたのではないかと考えています。

雪氷研究富山大会として、全日程を紹介する「大会プログラム」小冊子・大会ポスターを今回も作成しました。小冊子では、雪氷学会全国大会と雪工学会大会の全プログラムを紹介すると共に、両学会共同開催の公開講演会の講演概要・懇親会の案内・技術展示の紹介と企業広告を掲載しました。また大会ポスターは、経費削減のため実行委員会で印刷しました。

3. 研究発表

3.1 口頭発表

雪氷学会全国大会では、21 のセッション、合計 99 件（うち 1 件はキャンセル）の口頭発表が行われました。口頭発表の申込が多かったため、一部の発表をポスターに変更させて頂きました。

ほとんどの発表が PC と液晶プロジェクターを使用したものでした。PC へのファイルコピーを円滑に行うため、午前と午後で別の PC を使用することとし、発表の半日前から PC へのファイルコピーができるように配慮しました。この方法で

は多くの PC が必要となりますが、今回は富山大学の総合情報基盤センターのご協力を得て実現することができました。

3.2 ポスター発表

ポスター発表は 2 部構成としましたが、会場の広さを生かして全てのポスターを午前中から一日中掲示できるようにしました。合計 117 件の発表を奇数と偶数で分け、前半は奇数番号、後半は偶数番号としました。張り替えがなく、会場が広がったため好評でした。

前回まで全てのポスター発表について 1 分間スピーチを行っていましたが、今大会では VIP 賞登録者のみとしました。これは 1 分間とはいえ全員が発表するには 2 時間を要するため、本来のポスター発表の時間を十分に取れなかったためです。1 分間スピーチについては今後も大会毎に検討されるものと思われます。

3.3 VIP 賞

樋口敬二会員の基金提供による VIP 賞の選考は今回で 5 回目になりました。研究発表登録時に VIP 賞の選考対象となることを発表者自身から申請していただき、予め依頼した選考委員に各発表を採点して頂きました。選考委員が全ての発表を聞くことができるようプログラム編成でも考慮しました。

選考委員の方には採点結果をもとに審査頂き、昨年同様、口頭発表とポスター発表それぞれについて最優秀賞と優秀賞を選考して頂きました。選考委員をお引き受け頂いた方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

VIP 賞選考対象発表は、口頭発表が 17 件、ポスター発表が 14 件でした。今年の各賞の受賞者



図 3 口頭発表会場



図 4 ポスター発表会場

及び発表題目は次の通りです。

○口頭発表

最優秀賞：伊藤 真人氏（富山大学大学院理工学教育部）

氷表面における Xe hydrate 結晶の成長形態と成長メカニズム

優 秀 賞：澤田 結基氏（北海道大学低温科学研究所）

北海道中央部・西ヌブカウシヌプリの岩塊斜面末端部に分布する越年地下氷の形成年代と起源の推定

○ポスター発表

最優秀賞：中埜 貴元氏（富山大学大学院理工学教育部）

立山内蔵助雪溪の全体構造のレーダ探査による推定

優 秀 賞：佐々木央岳氏（北海道大学環境科学院）

アラスカ・ランゲル山雪氷コア中の鉄濃度の変動

実行委員会側が用意する副賞は、立山かんじきや地酒詰め合わせなど富山らしいものを用意しました。また今回は参加賞として富山の売薬で使われる紙風船を登録者全員に用意しました。

また、VIP 賞の趣旨やメダル・副賞を会場に掲示したり、ポスター発表の直後にポスター部門の表彰式を行うことで、より大会を盛り上げるように工夫しました。

3.4 各種会合

初日（9/25）の午後と三日目（9/27）の夕方に各種会合を設定し、学会のお知らせで申込を受け付けました。会場に余裕があったため多くの分科会を同時間に設定できましたが、他の分科会に参加できない状態は以前と変わりはなく、より多くの会員が参加可能にするには分科会主催の特別セッションの設定など、根本的なスケジュール組み替えが必要であると考えられます。

なお、締切後、特に直前に分科会以外のいくつかの会合の申込があり、今回は公式・非公式に要望を受け入れましたが、実行委員会としてどのような団体までを、公式にまたいつまで受け入れるかについては検討が必要であると感じました。

4. 公開講演会

今回は富山という地域特性を生かして「立山」をメインテーマとすることを決定し、内容の検討と準備を進めました。その結果「立山をめぐる雪と人」というテーマで多方面からの講師をお願いすることとし、時間の関係からシンポジウムではなく講演会とすることにしました。

テーマ「立山をめぐる雪と人」

○「立山から南極へ」

渡辺 興亜氏（国立極地研究所名誉教授、総合研究大学院大学監事）

立山ガイド 5 名の第 1 次南極観測隊での活躍、立山から世界へ羽ばたいた雪氷研究について紹介。

○「立山の雪氷研究」

川田 邦夫氏（富山大学極東地域研究センター長）
立山黒部山岳地域で行われてきた雪氷研究の歴史と意義を振り返る。

○「豪雪の山での遭難救助」

梶田 正氏（富山県警察山岳警備隊隊長）
豪雪の剱岳での遭難救助にあたる日本一の山岳警備隊の活躍と、雪の恐ろしさを紹介。

○「登山、スキー大好き ―立山の雪を楽しむ―」

佐伯 克美氏（登山家、富山県ナチュラリスト、元小学校校長）

登山、スキー、自然解説活動を通して、立山の雪との親しみ方を紹介。

各講師には、富山的话题を十分に意識した講演をしていただきました。また、立山関連の素晴らしいスライド等も見ることができ、聴講者にはおむね好評でした。

150 分で 4 名の講演ということで、1 人の持ち時間が 30～40 分程度となり、じっくりと講演を



図 5 公開講演会

伺うことができなくて残念でした。また、休憩時間をとることができなかったことも反省点の一つでした。

5. 授賞式

2007 年度学会賞受賞者に対し、雪氷学会会長から賞状とメダルが授与されました。各賞の受賞者と件名は次の通りです。受賞者のことは本号に掲載されています。

- ・学術賞：鈴木 啓助氏（信州大学理学部）
山岳地域における雪氷化学的研究
- ・平田賞：島田 亙氏（富山大学大学院理工学研究部）
過冷却水から成長する氷結晶の形態形成機構の研究
- ・論文賞：松下 拓樹氏（独立行政法人土木研究所寒地土木研究所）、
西尾 文彦氏（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）
着雪を生じる降水の気候学的特徴
- ・論文賞：鈴木 亮平氏（名古屋大学大学院環境学研究科）、
藤田 耕史氏（名古屋大学大学院環境学研究科）、
上田 豊氏（名古屋大学名誉教授）
ASTER データによって得られたヒマラヤのデブリ氷河上の熱特性空間分布

6. 懇親会

雪氷学会と雪工学会の合同で、懇親会が開催されました。

日時：平成 19 年 9 月 26 日（水）18：00～20：00

場所：名鉄トヤマホテル

参加人数：約 260 人

伝統芸能「越中おわら」の公演を開会に先立って見て頂き、地元特産のさまざまな料理と富山の地酒を味わって頂きました。

7. 企業展示・写真展示

今回は 8 件（うち 1 件はキャンセル）の企業展示と小荒井実氏の写真展示がありました。休憩室と併設という形を取り、二つの研究発表会場の中に設置したこともあり、多くの会員の来場がありました。

8. おわりに

雪氷学会全国大会を含む雪氷研究富山大会の参加者は 460 名を越え（雪工学会のパネルディスカッション・雪崩安全セミナーの参加者を含まず）、実行委員会の予想を大きく上回る盛会となりました。遠いところご参加頂きありがとうございました。

雪工学会との同時期一部合同の開催も 3 回目になりましたが、まだまだ課題が残されています。大会中に行ったアンケートでも様々なご意見・ご感想を頂いています。これらは今後、理事会の事業委員会を通してさまざまな形で生かされていく



図 6 懇親会



図 7 雪氷研究富山大会実行委員・スタッフ

と考えています。

雪氷研究富山大会の開催に際し、多くの方々・団体にご協力頂きました。ご後援頂いた富山県高等教育振興財団、(財)富山コンベンションビューロー、富山市に感謝申し上げます。また、技術展示・広告にご賛同頂いた団体・企業・個人のみなさまにお礼を申し上げます。

雪氷学会の関係役員及び学会事務局の方には、

準備から大会期間を通してお力添えを頂きました。また会場設営・大会運営では、富山大学の多くの学生諸氏の協力無くしては成り立ちませんでした。そして実行委員のみなさまには、長期間にわたる準備から大会運営まで大変お疲れさまでした。みなさまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

(2007 年 11 月 30 日受付)